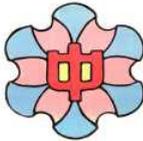


<p>学校教育目標 自ら輝け 夢をつかめ ～笑顔・感動 はつらつ植水～</p>	<p>学校だより</p> <p>瑞 穂</p> 	<p>令和6年度12月号 令和6年11月29日 さいたま市立植水中学校 HP uemizu-j@saitama-city.ed.jp</p>
---	--	--

心を磨く

校長 太田 鋭一

木々が冬に備え葉を落とし、寒さがいつそう身にしみる季節となりました。早いもので、暦の上では「師走」となり、いよいよ今年も残り一ヶ月となりました。保護者・地域の皆様方には、今年一年間、学校の様々な教育活動に御支援、御協力をいただき誠にありがとうございました。2学期を振り返りますと、さいたま市新人体育大会に始まり、生徒会本部役員選挙、さいたま市駅伝大会、合唱コンクール等の行事が行われました。生徒たちは、それぞれの行事を通して、仲間と協力して取り組む素晴らしさや、一生懸命取り組むことにより達成感を得て、多くのことを学んだことだと思います。来年も、更に充実した学校生活を送れるよう期待しております。

さて、話は変わりますが、本校は緑が多く、木々の剪定などの手入れが大変です。毎日、業務主査の松浦さんや鈴木さん、地域連携コーディネータの田中先生が手入れをしてくれています。この時期は特にたくさんの落ち葉が舞い落ち、落ち葉がたまるので、落ち葉掃除をしてくれています。生徒の皆が下校する前には、落ち葉をまとめた袋がいくつも積まれて、すっかり綺麗になっています。教育学者の森信三先生が提唱した「時を守り 場を清め 礼を正す」という人間の生活にとって大切な三原則として有名な言葉があります。この中で、「場を清める」ということについて、森先生は「場を清める」とは掃除をすることと述べられています。掃除をすることは、「変化に気づける」、「心を磨く」、「謙虚になれる」、「感動の心を育む」、「感謝の心が芽生える」これら5つの意味があると述べられています。目の前にごみが落ちていても知らない振りをするのではなく、それに気づき、さっと拾う感性を養うことで、自分の心を磨くことにつながる。足元に落ちていたごみを一つ拾うと一つだけきれいになる。清掃が行き届いている場所を見て、綺麗だなと感動の気持ちが湧いたときに、その場所を綺麗にしてくれた方に感謝し、自分も清掃をして、人のために尽くそうという心構えが芽生え、その人の人生を豊かにしてくれるとのことです。清掃について考え、「場を清める」ことを通して、自分自身の心を磨いてほしいと思います。